

## 野田市の屋敷神―木間ヶ瀬地区を中心に

石田年子

はじめに

古くからの集落には、敷地内に屋敷や土地の守護を目的とする屋敷神が祀られている家が多い。木造の小祠や石祠などが一般的であるが、ときには鳥居や手水石まで設らえた大がかりなものや庭先に大塚が築かれるなど、各家の歴史とも絡んでその形態は様々である。

これらの屋敷神を解析することで、近世・近代における公の寺社とは異なる民間信仰の発見や、住環境・職業・時代の流れが及ぼす個人信仰への差異などを垣間見ることができるとはならないかと考えた。

本稿で研究対象とする屋敷神は、家の根幹に関わる祖霊神などの重いものではなく、単純に敷地内に祀られた全ての神仏であり、民俗学的な、祀っている位置・祭日・供物・勧請の由来などへのアプローチはおこなっていない。

### 一、調査地域の概要

対象とした地域は野田市関宿南部の木間ヶ瀬地区・九四軒で、筆者が平成六年から独自でおこなった民俗行事の写真撮影や

石仏調査の折に平行して調べたデータを基礎とした。

木間ヶ瀬地区は将門伝説が残る古来よりの集落である。徳川家康が江戸に入府した天正一八年（一五九〇）より、同地区は禄高二〇〇石の旗本・古田五郎右衛門、次いで同・深津長右衛門が領主となったが、元文四年（一七三九）に深津家が上知された後は天領となり代官支配で明治期を迎えている。

村誌『木間ヶ瀬の歴史』に記載されている家数人別帳によると、屋敷神の勧請が増え始める江戸後期の文化一二年（一八一五）の村勢は、戸数が四六〇軒、総人口が二、四四八人（男一、二九七人・女一、一五一人）で、村高が三、〇四二石余となっている。又、勧請のピークとなる明治四三年には戸数が六四〇軒、人口が四、〇〇〇人となり、その後も漸次増加傾向にある。

村の東方は利根川に面し、沿岸には常陸国猿島地方とをつなぐ渡し場が三か所（時代により変動）ほどあった。特に出洲地区と対岸の長谷地区をつなぐ「長谷の渡し」は奥州から江戸への主要ルート上に位置しており、この渡し場名を刻む道標は多い。又、河川改修前までは利根川沿岸や中州の檀築島で漁業や船頭を生業とする人々が船頭町を形成していた。

南方には阿部沼という大沼が存在し、通常は漁や藻刈りに利用される美しい沼であったが、大雨になると周辺から流れ込ん

だ水が氾濫を起こし、周辺地域に被害を及ぼした。中央部の台地は農作地で、住宅地として開発が進む昭和五〇年代までは煙草栽培などが盛んな純農村地域であった。

特筆しておきたいのは、この村の民間信仰の先進性である。兵庫県加西市の西国観音札所二六番・一乗寺に打ち付けられた順札札中に、貞享元年（一六八四）に木間ヶ瀬村講中の二七人が奉納した札が残されていることが奈良県にある元興寺文化財研究所の調査で判明している。このことは江戸初期から西国観音霊場を巡れるほどの経済力がある農民集団が木間ヶ瀬村に存在したことを意味している。

又、天明二年（一七八二）には名主の岩本治平が願主となり、村を上げて富士塚を築いている。富士塚が始めて江戸で造立されたのは安永八年（一七七九）のことで、富士講の祖である食行身録の弟子の高田藤四郎が、富士山に登れぬ老人や病人など弱者の為に、江戸・戸塚町（新宿区西早稲田）に富士山に似せた大塚を築いたことによるとされる。木間ヶ瀬村での富士塚の築造はそれから僅か三年後のことで、驚くべき早さといえる。又、村の鎮守である飯塚地区の白山神社には絵馬として、野田市最古の七福神図が宝永七年（一七一〇）に奉納されている。

## 二、敷地内に神仏が祀られる理由

屋敷神が祀られる理由は、家や土地の守護が主な目的だが、勧請された経緯や神仏の種類は時代やその家の歴史が反映して一様ではない。通常、当家が屋敷内の守護を目的に有名社寺から御魂を勧請するのが一般的だが、他に以下のようなケースが見られた。

① 本来は村中で造立した供養塔だが、屋敷に隣接する場所に祀られた為、時間の経過と共に当家の屋敷神となった。

一例に、前村には瘡阿弥陀と称される瘡瘡や性病の治癒に

霊験があるとして信仰された延宝期の阿弥陀如来塔がある。本来は当村の講中で造立したものが、現在は隣接するI家が御堂を守っている。

② 家内で死者・病人・怪我人などのトラブルが続いた際に、宗教者のアドバイスで屋敷神を祀った。

馬頭観音塔と浅間塔を祀る家で聞き取りをして分かったものだが、このような事例は他にもあると思われる。

③ 他家が引越す際に屋敷神を譲渡されたり、他所から拾ってきた神仏を祀ったとする伝承が残る。

屋敷神を譲り受けることは納得できるが、祀り手がおらず遺棄された神仏を拾って祀るとは通常理解し難いが、川から流れてきたとの伝承のある神仏を祀っている集落が数例あり、何か民間信仰的な意味があるようだ。

④ 自家が所有する畑地や湿地などを売却する際に、現地に祀った神仏を自宅に引き取る。

南部地域に所在した阿部沼は戦後に干拓され、現在、中古車販売会社のセンターとなっているが、この付近の家に水神系の屋敷神が多い。かつて沼周辺に土地を所有していた家が干拓の際に引き取ったものと考えられる。

⑤ 先祖が山岳信仰などの先達だった。

江戸後期に始まる富士講や木曾御嶽講が野田地方の民間信仰に及ぼした影響は実に大きく、各集落の鎮守神社の境内に築かれた富士塚や御嶽塚の多さからも判断できる。

各講社の講祖や先達であった家には本格的な塚が残されており、先祖が熱心な信者であった家にも小塚や石塔の造立が確認できる。

⑥ 祖先に信心深い人物がおり、修行成就の記念や信仰対象として勧請した神仏が祀られている。

自らの成仏と子孫繁栄などを祈願して百観音霊場や四国霊場、出羽三山を巡拝した記念として造立された供養塔

が門前に残る家が数軒ある。かつて村の有力者や地主などであった家にこの事例が多く、野田市全域で見られる。

### 三、屋敷神の種類と内容

表1・図1は調査対象の九四軒に祀られている「神仏の種類数」と「信仰の種類」を可視化したものである。各戸に祀られた神仏は単一とは限らず、調査基数(社)は一七九基を数えた。又、一基に数柱の神仏が合祀された事例もあり、屋敷神の種類は五一種に上った。図1に示した信仰等を以下に説明する。

#### ア・稲荷信仰

稲荷信仰は五穀豊穡・商売繁昌・土地守護・火伏せなど多様な利益が語られることから、庶民の間に大変人気のある信仰で、屋敷神の定番といえる。

当地域でも稲荷信仰に関わるものが全体の二〇%をしめる。石祠や自然石碑が二八基で、江戸中期(宝永)から現代までと造立時期が長い。又、木堂に祀られた稲荷社も一二例あり、他の神塔には見られない多さである。稲荷神の祀られた木堂や鳥居は赤く塗られ、中には有名な稲荷神社のお札や瀬戸物の狐使が置かれている。利根川流域では、初午にスミツカレという特別な郷土料理を上げることが慣習としてある。

木間ヶ瀬地区の下根では初午に地区の集会所で稲荷ピシヤをおこなっており、各戸の稲荷社を礼拝して回った後に会場に向かうこととなっている。

#### イ・山岳信仰

関東一円は江戸後期から明治期にかけて富士講や木曾御嶽講などの山岳信仰が非常に流行った。木間ヶ瀬地区もその影響は大きく、富士講として丸木講・丸宝講・山参講の組織があり、木曾御嶽講も丸木講・丸古講・丸宝講が組織されて

いた。講の中心者である先達の家には大塚が残り、組織の役員も屋敷内に本尊を祀っている事例が多数見られるなど、山岳信仰隆盛の痕跡が屋敷神に反映していた。

因みに、木間ヶ瀬地区は富士講と御嶽講が混在して確認されているが、木曾御嶽・丸古講社の大先達が居住していた古布内地区の以北では明治期から昭和期にかけて御嶽大神の屋敷神が多く、江戸川沿岸の平井・岡田地区では西宝珠花に本部のあった富士・丸宝講関連の浅間大神の屋敷神が多い。

#### ウ・水神信仰

東方に利根川が流れ、南方に阿部沼があった木間ヶ瀬地区は、水に関わる屋敷神が多い。水神系の信仰は祀られる場所や願いの用途により水神・竜神・弁財天・巖島・金毘羅など多様な神仏が二八基確認された。本来、これらの神仏は屋敷神として祀るといふより、川沼や湧水地に祀るものである。しかし、自家所有の土地を河川工事や沼地の干拓で手放すなどの理由で、敷地内に引き取り屋敷神にしたものと考えられる。この地区では弁天塔・巖島塔・竜神塔などが水源守護の目的として沼や湧水地の傍に祀られ、水神塔が氾濫除けとして河川沿岸に祀られる傾向がある。また、雷神宮は雷除けの外に、雨乞い信仰も絡んでいる。

#### エ・馬頭観音塔(動物供養)

馬頭観音は六観音中の一尊で、本来、人々の無智や煩惱を除き諸悪を破る菩薩とされている。しかし、民間では馬の守護を目的として信仰されることが多い。馬は他の家畜と異なり人とのつながりが深く、飼馬が死ぬと墓石の意味を含んだ馬頭観音塔を造立することがあった。反面、暴走を起こした馬によつて死者や怪我人が出る事故が恐れられ、「馬は崇る」との迷信もあった。それら諸々の事情を含め、家の入口や垣根の脇などに馬頭観音塔を祀る例が一四軒確認された。一般社寺にも馬頭観音塔の造立は多いが、講中の造立と屋敷神で

は微妙に内容が異なると思われる。  
オ・猿田彦信仰

猿田彦命は、高天原から降臨してくる天孫・邇邇藝命を天の八街で待つて道案内をしたという日本神話から、道祖神や塞神と同一視されるなど多くの靈験を持つ日本古来の神である。野田市における猿田彦信仰は、神道庚申講の至尊とする信仰が主流であるが、木間ヶ瀬地区にはこれと異なる猿田彦信仰が見られる。

猿田彦塔のうち五基は庚申塔であるが、他の八基は茨城県下妻市坂井に鎮座する千勝神社からの勧請のようである。松ノ木地区の旧家に建つ屋敷神に、文政期造立と思われる猿田彦塔があり、塔の裏面に「右ハ常陸国真壁坂井村御鎮座写」の銘文がある。これは現在の茨城県下妻市坂井に鎮座する千勝神社を現している。なお、当神社は応永三二年（一四二五）より猿田彦命を祀る由緒ある神社である。猿田彦命の功德の中に「土地屋敷の守護」があり、千勝神社への信仰はこのことを目的としたものようで、この屋敷神を祀る家がかつて地主であった家が多く、野田市内の一般神社には見かけない神塔である。

#### カ・その他

屋敷神とはいえないが、敷地内に太平洋戦争の戦没者の供養碑が建っている家が数軒見られた。又、屋敷神の中に子供の夜泣きや疔取りなど、本来の主願とは異なる信仰が派生して信仰されている事例も散見された。近隣の人々は願いに応じて他家の屋敷神に参ることもあったようだ。

仙人権現塔を祀る家が二軒あるが、これは山形県最上郡戸沢村の最上川沿岸にある仙人堂からの勧請で、子供の疔の虫封じに靈験があるという神である。出羽三山への登拝時に立ち寄ることがあり、二軒の先祖も出羽三山の登拝の折に、こから御霊を勧請したようである。松ノ木地区の事例から、

以前は靈験を伝え聞いて遠方から参る信者も多く、同家で奉納の絵馬を販売していた時期があったという。願いの折には堂内に奉納された布を借りて子供のお腹に巻き、疔の虫が治まると借りた布を二倍にして返すのが決まりであった。又、明治半ばから大正期にかけて「大金神」「姫金神」など、方位に関連した神名の塔が四基造立されている。周辺地域も含むと管見で七基確認しており、これらは明治期以降に興った新宗教の影響と思われる。

#### 四、屋敷神造立数の推移

図2は、採録した木間ヶ瀬地区の屋敷神・一七九基のうち、造立年が明らかでない一三六基を年代順に表したものである。このグラフでは寛政一二年（一八〇〇）から造立が目立ちはじめ、明治期にピークを迎えている。江戸後期から屋敷神として勧請したものが全体の八〇%強と圧倒的に多い。これは他の石塔の造立数全体に共通することで、石造物の造立に制限を加えていた江戸幕府の政策がこの頃から緩くなったということだろうか。

明治期の増加は神仏分離の宗教改革や山岳信仰の隆盛、日清・日露戦争などの時代の変化が背景にあるものと思われる。

#### 参考資料

- 『日本石仏事典』雄山閣出版 一九七五
- 『木間ヶ瀬の歴史』関宿町教育委員会 一九七八
- 『関宿町の石造物』私家版 拙著 二〇〇二
- 『兵庫県加西市・一乗寺の歴史資料(順礼札)の調査とデータベース化』元興寺文化財団研究所 二〇〇九

- 『流山の屋敷神』流山市立博物館 一九九三  
拙著「野田市の猿田彦塔」『房総の石仏二〇号』房総石造文化財研究会 二〇一一  
拙著「野田市の山岳信仰① 石造物にみる野田地方の出羽三山信仰」『研究報告九号』県立関宿城博物館 二〇〇五  
拙著「野田市の山岳信仰② 浅間塚が語る富士講の隆盛」『研究報告一一号』県立関宿城博物館 二〇〇七  
拙著「野田市の山岳信仰③ 霊神碑が語る木曾御嶽講の歴史」『研究報告一三号』県立関宿城博物館 二〇〇九  
拙著「最上川からきた虫神様・仙人権現」『日本の石仏一三二号』日本石仏協会 二〇〇九

(いしだ・としこ 当館展示協力員)

木間ヶ瀬地区の屋敷神の写真



表1. 木間ヶ瀬地区屋敷神種類

No.	種類	基数	No.	種類	基数	No.	種類	基数	No.	種類	基数
1	稻荷塔・社	40	14	大神宮	3	27	将門供養塔	2	40	宗吾塔	1
2	浅間塔	18	15	天神塔	3	28	妙見塔	2	41	大日如来	1
3	水神塔	13	16	弃天塔	3	29	八坂塔	2	42	月読塔	1
4	馬頭観音塔	12	17	愛宕塔	2	30	阿弥陀塔	1	43	念仏塔	1
5	御嶽塔	10	18	巖島塔	2	31	牛供養塔	1	44	毘沙門天塔	1
6	雷電宮	9	19	井戸水神塔	2	32	大杉塔	1	45	不動塔	1
7	千勝塔	8	20	大山塔	2	33	観音像外	1	46	墓石	1
8	猿田彦	5	21	鬼子母神	2	34	清龍権現塔	1	47	三峰社	1
9	竜神塔	5	22	荒神塔	2	35	虚空蔵塔	1	48	山神塔	1
10	庚申塔	4	23	御霊塔	2	36	駒形塔	1	49	鷲宮塔	1
11	金神塔	4	24	地藏塔	2	37	金毘羅塔	1	50	摩怛利神塔	1
12	八幡宮	4	25	仙人権現塔	2	38	白狐塔	1	51	八大竜王塔	1
13	板碑	3	26	二十三夜塔	2	39	諏訪社	1		合計	192

図1. 木間ヶ瀬地区・信仰別屋敷神数

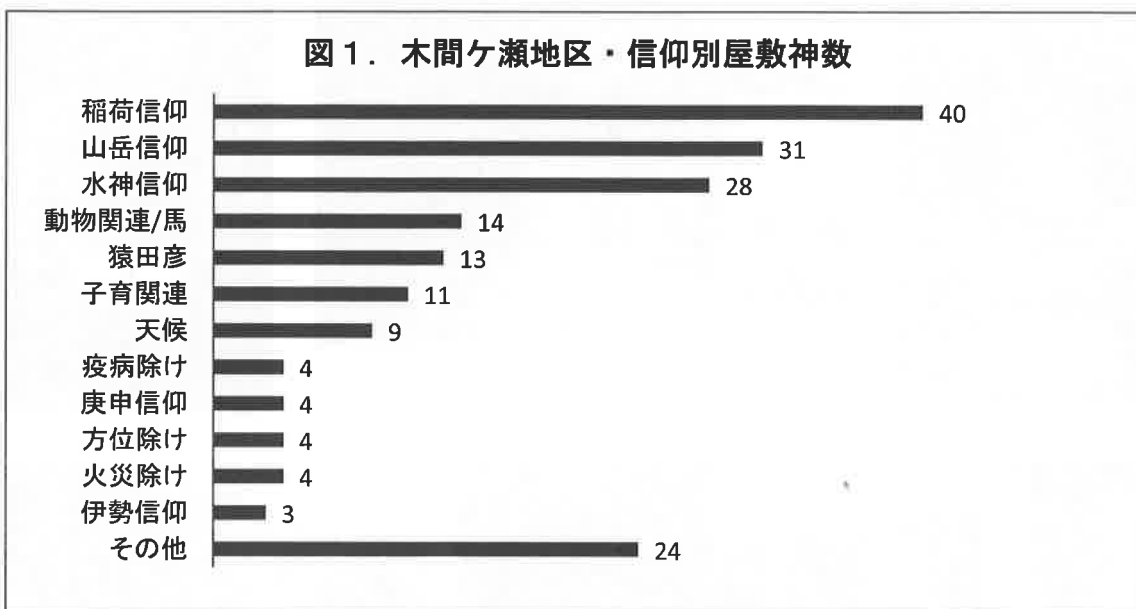
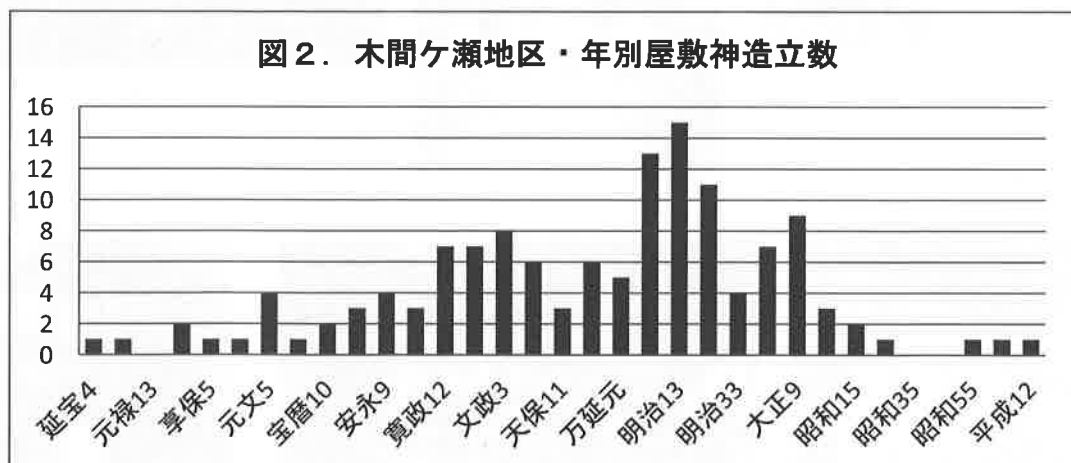


図2. 木間ヶ瀬地区・年別屋敷神造立数



木間ヶ瀬地区屋敷神一覧

総No.	家No.	所在地区名	銘文等	信仰	祀り場所	形骸	造立年	西暦	備考
1	1-1	木間ヶ瀬高倉	稻荷神社/千勝神社	稻荷/千勝塔	木堂	自然石碑	大正		小祠
2	1-2	木間ヶ瀬高倉	社) 稻荷社	稻荷社	木堂	石祠	享和3年	1803	
3	2-1	木間ヶ瀬高倉	不明	不明	木堂	駒型	明治11年	1878	蛇除け
4	2-2	木間ヶ瀬高倉	八大童王	竜神塔	木堂	石祠	寛延2年	1749	武者土村 吉沢九右衛門
5	2-3	木間ヶ瀬高倉	社) 稻荷社	水神塔	木堂	石祠	明治20年	1887	吉沢/前の持ち主は越した
6	3-1	木間ヶ瀬武者上	稻荷社	稻荷塔	木堂	自然石碑	明治12年	1879	御嶽講・丸き講社の先達
7	3-2	木間ヶ瀬武者上	御嶽山神社	御嶽塔	御嶽塚	自然石碑	明治12年	1879	
8	4-1	木間ヶ瀬武者上	八海山神社	御嶽塔	御嶽塚	自然石碑	明治12年	1879	
9	4-2	木間ヶ瀬武者上	普寛霊神/覚明霊神	御嶽塔	御嶽塚	自然石碑	明治12年	1879	霊神碑
10	4-3	木間ヶ瀬武者上	松寿霊神/供養塔	御嶽塔	御嶽塚	兜巾型	明治15年	1882	霊神碑
11	4-4	木間ヶ瀬武者上	山中太平治顕彰碑	御嶽塔	御嶽塚	自然石碑	明治29年	1896	霊神碑
12	4-5	木間ヶ瀬武者上	水神宮	水神塔	木堂	石祠	元文4年	1739	武者土・大杉神社境内にあった
13	5-1	木間ヶ瀬武者上	菅公座像/筆子塔	天神塔	木堂	丸彫り	弘化13年	1830	願主 直井仁大夫/屋号・本殿
14	5-2	木間ヶ瀬武者上	庚申塔/千勝大明神	庚申/千勝塔	木堂	石祠	弘化4年	1847	
15	5-3	木間ヶ瀬武者上	姫金神	金神塔	木堂	自然石碑	不明	1927	飯塚伊之吉/飯塚常吉
16	6-1	木間ヶ瀬武者上	将門霊神	将門供養塔	木堂	角塔	昭和2年	1927	古人之口碑
17	7-1	木間ヶ瀬飯塚	平将門手植之櫻	将門記念碑	木堂	自然石碑	昭和10年	1935	
18	7-2	木間ヶ瀬飯塚	馬頭観世音	浅間大神	木堂	自然石碑	明治9年	1876	
19	8-1	木間ヶ瀬飯塚	龍神	馬頭観音	木堂	自然石碑	明治32年	1899	柿沼伝次右衛門
20	8-2	木間ヶ瀬飯塚	千勝神社	竜神塔	木堂	自然石碑	不明		
21	8-3	木間ヶ瀬飯塚	虚空蔵菩薩	虚空蔵塔	木堂	自然石碑	不明		
22	8-4	木間ヶ瀬飯塚	稻荷神社	稻荷塔	木堂	自然石碑	不明		
23	8-5	木間ヶ瀬飯塚	駒形神社	駒形塔	木堂	自然石碑	不明		
24	9-1	木間ヶ瀬飯塚	御嶽神社/三笠山神社/八海山神社	御嶽塔	木堂	自然石碑	大正13年	1924	
25	10-1	木間ヶ瀬飯塚	御嶽神社/三笠山神社/八海山神社	御嶽塔	木堂	自然石碑	明治20年	1887	塚造営/明治27年/名主
26	11-1	木間ヶ瀬飯塚	浅間神社	浅間塔	塚	自然石碑	明治		
27	12-1	木間ヶ瀬前村	三峰神社	三峰塔	木堂	丸彫り	天明6年	1786	
28	12-2	木間ヶ瀬前村	菅公座像/筆子塔	天神塔	木堂	石祠	寛政12年	1800	松ノ木天満宮より勧請
29	12-3	木間ヶ瀬前村	菅公座像	水神塔	木堂	木像	寛政12年	1800	牧場経営
30	12-4	木間ヶ瀬前村	菅公座像	天神塔	木堂	木像	昭和63年	1988	瘡阿弥陀/
31	13-1	木間ヶ瀬前村	牛魂碑	牛供養塔	木堂	角塔	延宝4年	1676	糸賀重右衛門
32	13-2	木間ヶ瀬前村	阿弥陀如来像	阿弥陀塔	木堂	光背型像刻	明治24年	1891	
33	13-3	木間ヶ瀬前村	三山百番塔	順礼碑	木堂	自然石碑	昭和47年	1972	
34	14-1	木間ヶ瀬前村	稻荷神社/清龍権現	稻荷/竜神塔	塚	自然石碑	明治31年	1898	火事のあとで造立
35	14-2	木間ヶ瀬前村	三寶荒神	荒神塔	塚	自然石碑	明治31年	1898	火事のあとで造立
36	15-1	木間ヶ瀬前村	龍王大神	龍神塔	塚	自然石碑	明治31年	1898	火事のあとで造立
37	16-1	木間ヶ瀬前村	不動尊	不動塔	塚	自然石碑	明治31年	1898	火事のあとで造立
38	16-2	木間ヶ瀬前村	八幡宮	八幡宮	塚	自然石碑	明治31年	1898	火事のあとで造立
39	16-3	木間ヶ瀬前村	蘇民将来宮	蘇民宮	塚	自然石碑	天明5年	1785	羽貫 施主平右衛門
40	16-4	木間ヶ瀬前村	御嶽大神	御嶽塔	覆屋	石祠	天保3年	1832	田中仁右衛門
41	17-1	木間ヶ瀬羽貫	延命地藏/童女戒名3	地藏塔	覆屋	角塔	明治11年	1878	武者土・山中太平治に嫁いだ娘あり
42	17-2	木間ヶ瀬羽貫	稲荷大明神/千勝大明神	稻荷/千勝塔	塚	自然石碑	文政2年	1819	子育地藏信仰
43	17-3	木間ヶ瀬羽貫	社) 稻荷社	稻荷社	木堂	光背型像刻	嘉永4年	1851	
44	18-1	木間ヶ瀬羽貫			木堂	石祠			
45	18-2	木間ヶ瀬羽貫			木堂	石祠			
46	19-1	木間ヶ瀬松ノ木			木堂	石祠			



47	19-2	木間ヶ瀬松ノ木	不明	不明	不明	不明	不明	石祠	享和2年	1802	竹藪からもってきた
48	20-1	木間ヶ瀬松ノ木	奉祭水神宮	水神塔	木堂	木堂	木堂	角塔	宝永2年	1705	
49	20-2	木間ヶ瀬松ノ木	毘沙門天宮	天塔	木堂	木堂	木堂	角塔	文政4年	1821	
50	21-1	木間ヶ瀬松ノ木	仙人権現	権現塔	木堂	木堂	木堂	石祠	文化3年	1806	虫封じの神として信仰あり。遠方より参る人あり
51	21-2	木間ヶ瀬松ノ木	三玉禮神	御霊神塔	木堂	木堂	木堂	駒型	安政4年	1857	
52	22-1	木間ヶ瀬松ノ木	浅間神社	浅間塔	浅間塚	浅間塚	浅間塚	自然石碑	明治14年	1881	丸石積みの小塚
53	23-1	木間ヶ瀬松ノ木	岩本祐治・祐永霊神碑	霊神碑	霊神碑	霊神碑	霊神碑	石祠	文政11年	1828	岩本治平祐昌代
54	23-2	木間ヶ瀬松ノ木	猿田彦大神	猿田彦塔	猿田彦塔	猿田彦塔	猿田彦塔	自然石碑	安政6年	1859	岩本久女
55	23-3	木間ヶ瀬松ノ木	雷電宮	雷電宮	雷電宮	雷電宮	雷電宮	石祠	寛政12年	1800	
56	23-4	木間ヶ瀬松ノ木	浅間大神	浅間塔	浅間塔	浅間塔	浅間塔	自然石碑	明治14年	1881	岩本久女
57	23-5	木間ヶ瀬松ノ木	蔵島大神	蔵島塔	蔵島塔	蔵島塔	蔵島塔	自然石碑	明治39年	1906	
58	23-6	木間ヶ瀬松ノ木	不明	不明	不明	不明	不明	石祠	天明5年	1785	願主 松野木 岩本祐直
59	23-7	木間ヶ瀬松ノ木	猿田彦尊	猿田彦塔	猿田彦塔	猿田彦塔	猿田彦塔	石祠	文政力	1830	常陸国真壁坂井村御鎮座写/祐昌
60	23-8	木間ヶ瀬松ノ木	雷電宮	雷電宮	雷電宮	雷電宮	雷電宮	石祠	天明2年	1782	木間ヶ瀬村 祐直建之
61	23-9	木間ヶ瀬松ノ木	大山祇命	大山塔	大山塔	大山塔	大山塔	石祠	文化11年	1814	木間ヶ瀬村 願主岩本治平祐直代
62	23-10	木間ヶ瀬松ノ木	白狐神霊	白狐塔	白狐塔	白狐塔	白狐塔	石祠	寛政9年	1797	
63	23-11	木間ヶ瀬松ノ木堂									
64	24-1	木間ヶ瀬鴻巣	稻荷大明神	稻荷塔	木堂	木堂	木堂	石祠	文化7年	1810	
65	24-2	木間ヶ瀬鴻巣	大日如来	大日如来	木堂	木堂	木堂	自然石碑	明治		
66	25-1	木間ヶ瀬鴻巣	社) 稻荷社	稻荷社	木堂	木堂	木堂		不明		先祖が医者
67	26-1	木間ヶ瀬鴻巣	お骨堂	骨堂	木堂	木堂	木堂	石祠	文化	1818	拾ってきた
68	27-1	木間ヶ瀬鴻巣	雷電神社	雷電宮	木堂	木堂	木堂		不明		
69	28-1	木間ヶ瀬向ノ内	社) 稲荷社	稲荷社	木堂	木堂	木堂		文化		
70	29-1	木間ヶ瀬向ノ内	延命地藏座像	地藏塔	木堂	木堂	木堂	丸彫	天保6年	1835	
71	29-2	木間ヶ瀬向ノ内	千勝神社	千勝塔	木堂	木堂	木堂	石祠	大正5年	1916	
72	29-3	木間ヶ瀬向ノ内	雷電神社	雷電宮	木堂	木堂	木堂	石祠			
73	30-1	木間ヶ瀬志部前堀	御嶽山大神	御嶽塔	木堂	木堂	木堂	自然石碑	大正3年	1914	丸古講社
74	31-1	木間ヶ瀬志部前堀	社) 稲荷社	稲荷社	木堂	木堂	木堂				
75	32-1	木間ヶ瀬志部前堀	馬頭観世音	馬頭観音塔	木堂	木堂	木堂	自然石碑	昭和8年	1833	馬頭観世音/勲八等松本市五郎
76	33-1	木間ヶ瀬志部前堀	御嶽三柱大神/八海山/三笠山	御嶽塔	木堂	木堂	木堂	自然石碑	大正13年	1924	丸古講/鈴木治平建立/社主大教正 岩本静拝書
77	33-2	木間ヶ瀬志部前堀	法華經稻荷大明神/井戸水神/弁財天	稲荷・水神塔	木堂	木堂	木堂	駒型	昭和12年	1937	願主 鈴木いね
78	34-1	木間ヶ瀬志部前堀	若宮八幡大神	八幡塔	木堂	木堂	木堂	石祠	享和3年	1803	
79	34-2	木間ヶ瀬志部前堀	稻荷大明神	庚申塔	木堂	木堂	木堂	駒型	昭和		逆井仁左衛門
80	34-3	木間ヶ瀬志部前堀	庚申塔	庚申塔	木堂	木堂	木堂	角塔	再建		耳の神信仰あり
81	35-1	木間ヶ瀬志部前堀	板碑	板碑	木堂	木堂	木堂				この場所が辻だった
82	35-2	木間ヶ瀬志部前堀	百尊念仏供養塔	念仏塔	木堂	木堂	木堂	石祠	元禄3年	1690	
83	36-1	木間ヶ瀬志部前堀	雷電社	雷電宮	木堂	木堂	木堂	石祠	明和5年	1768	
84	36-2	木間ヶ瀬志部前堀	大金神	金神塔	木堂	木堂	木堂	自然石碑	明治23年	1890	
85	37-1	木間ヶ瀬志部前堀	板碑	板碑	木堂	木堂	木堂	不明			
86	37-2	木間ヶ瀬志部前堀	猿田彦大神	庚申塔	木堂	木堂	木堂	丸石	文化15年	1818	
87	37-3	木間ヶ瀬志部前堀	浅間大神/小御岳神社/元祖霊神	浅間塔	木堂	木堂	木堂	自然石碑	明治16年	1883	山参講
88	38-1	木間ヶ瀬志部前堀	白龍大神	電神	木堂	木堂	木堂	自然石碑	明治		
89	39-1	木間ヶ瀬志部前堀	仙元大神	浅間塔	木堂	木堂	木堂	自然石碑	明治12年	1879	
90	39-2	木間ヶ瀬志部前堀	馬頭観音	馬頭観音塔	木堂	木堂	木堂	駒型			
91	39-3	木間ヶ瀬志部前堀	社) 稲荷社	稲荷社	木堂	木堂	木堂				
92	40-1	木間ヶ瀬砂南	馬頭観世音	馬頭観音塔	木堂	木堂	木堂	自然石碑	平成7年	1995	再建/辻
93	41-1	木間ヶ瀬砂南	金比羅大神	金毘羅塔	木堂	木堂	木堂	石祠	文久元年	1861	
94	41-2	木間ヶ瀬砂南	浅間大神	浅間塔	木堂	木堂	木堂	自然石碑	明治		山参講

95	42-1	木間ヶ瀬砂南	俱利伽藍不動(龍)	竜神	竜神	木堂	角像付き	文政2年	1819	南坪 正左衛門
96	43-1	木間ヶ瀬砂南	稻荷大明神/水神宮	稻荷塔	稻荷/水神	木堂	石祠	天保2年	1831	
97	44-1	木間ヶ瀬出洲	稻荷大明神	御霊神	御霊塔	木堂	石祠	不明		
98	45-1	木間ヶ瀬出洲	御霊神	御霊神	御霊塔	木堂	石祠	嘉永		
99	46-1	木間ヶ瀬出洲	不明	不明	不明		石祠	明和5年	1768	
100	47-1	木間ヶ瀬出洲	水神宮/地金神	水神宮/地金神	金神		石祠	明治11年	1878	
101	48-1	木間ヶ瀬出洲	馬頭観世音	馬頭観世音	馬頭観音塔		自然石碑	明治37年	1904	杉内和希
102	48-2	木間ヶ瀬出洲	八坂神社	八坂神社	八坂塔		自然石碑	明治44年	1911	福田浅吉
103	49-1	木間ヶ瀬出洲	月読神社	月読神社	月読塔		駒型	昭和前期	1944	
104	50-1	木間ヶ瀬出洲	稻荷社	稻荷社	稻荷社	木堂	型	天保13年	1842	川辺伝右衛門
105	51-1	木間ヶ瀬出洲	三山百番塔/道標	三山百番塔/道標	音塔		角塔			
106	51-2	木間ヶ瀬出洲	馬頭観音	馬頭観音	馬頭観音塔	塚	石祠	文化5年	1808	御嶽先達
107	52-1	木間ヶ瀬出洲	稻荷大明神	稻荷大明神	稻荷塔		自然石碑	明治28年	1895	逆井利平治 望月東雲書
108	52-2	木間ヶ瀬出洲	三山百番塔	三山百番塔	嶽		自然石碑	明治45年	1912	
109	52-3	木間ヶ瀬出洲	蔵島神社	蔵島神社	蔵島塔	塚	自然石碑	明治45年	1912	
110	52-4	木間ヶ瀬出洲	雷電神社	雷電神社	雷電宮		石祠	文政10年	1827	
111	53-1	木間ヶ瀬出洲	稻荷大神/荒神宮	稻荷大神/荒神宮	荒神		角塔	大正15年	1926	
112	54-1	木間ヶ瀬出洲	馬頭観世音	馬頭観世音	馬頭観音塔	木堂	石祠			
113	54-2	木間ヶ瀬出洲	社) 稻荷社	社) 稻荷社	稲荷社	木堂	石祠			
114	55-1	木間ヶ瀬出洲	八幡宮	八幡宮	八幡塔	木堂	角塔			
115	55-2	木間ヶ瀬出洲	二十三夜塔	二十三夜塔	夜塔	木堂	駒型			
116	56-1	木間ヶ瀬出洲	稲荷大神	稲荷大神	稲荷塔	木堂	石祠			
117	57-1	木間ヶ瀬内野堤	稲荷社	稲荷社	稲荷塔	塚	自然石碑	明治14年	1881	丸宝講
118	58-1	木間ヶ瀬内野堤	浅間神社	浅間神社	浅間塔		石祠	明治16年	1883	堀越文五右衛門(穀屋だった)
119	59-1	木間ヶ瀬内野堤	正一位稲荷大神	正一位稲荷大神	稲荷塔		駒型	明治37年	1904	
120	59-2	木間ヶ瀬内野堤	馬頭観世音	馬頭観世音	馬頭観音塔		駒型	安政3年	1856	松本与菅兵衛(新宿)
121	60-1	木間ヶ瀬内野堤	水神宮/大神宮	水神宮/大神宮	水神宮/水神		角塔	宝暦8年	1758	鈴木貞次
122	61-1	木間ヶ瀬内野堤	天照皇大神宮/水神宮	天照皇大神宮/水神宮	大神宮/水神	木堂	石祠	昭和9年	1934	鈴木貞次
123	61-2	木間ヶ瀬内野堤	稲荷御正大神/水神宮/大山住口	稲荷御正大神/水神宮/大山住口	稲荷/水神/大山		駒型	天保14年	1843	山形県より勧請 虫神
124	62-1	木間ヶ瀬内野堤	仙人権現	仙人権現	仙人権現塔		石祠	万延元年	1860	出洲にあってたが河川改修で引き取った
125	63-1	木間ヶ瀬下根	妙見大菩薩	妙見大菩薩	妙見塔		自然石碑	昭和5年	1930	愛宕講あり
126	64-1	木間ヶ瀬下根	愛宕神社	愛宕神社	愛宕塔		自然石碑	明治19年	1886	湿地を売却の際に引き取った
127	65-1	木間ヶ瀬下根	辯財天	辯財天	稲荷塔		石祠	慶応4年	1868	
128	66-1	木間ヶ瀬下根	稲荷大明神	稲荷大明神	稲荷塔		駒型	大正13年	1924	
129	66-2	木間ヶ瀬下根	辯財天	辯財天	弁天塔		石祠	明治24年	1891	阿部沼関連か
130	66-3	木間ヶ瀬下根	二十三夜塔	二十三夜塔	二十三夜塔		駒型	慶応3年	1867	
131	67-1	木間ヶ瀬下根	水神宮	水神宮	水神塔		駒型	明治21年	1888	
132	67-2	木間ヶ瀬下根	馬頭観世音	馬頭観世音	馬頭観音		自然石碑	明治37年	1904	
133	67-3	木間ヶ瀬下根	雷電神社/愛宕神社	雷電神社/愛宕神社	雷電宮/愛宕宮	木堂	石祠	文政10年	1827	
134	67-4	木間ヶ瀬下根	社) 稲荷社	社) 稲荷社	稲荷社	木堂	駒型	慶応2年	1866	
135	68-1	木間ヶ瀬下根	箭弓稲荷大神	箭弓稲荷大神	稲荷/水神塔	木堂	石祠	江戸中期か	1780	
136	69-1	木間ヶ瀬下根	稲荷大明神/井水神	稲荷大明神/井水神	稲荷塔	木堂	駒型	天保4年	1833	鈴木傳兵衛
137	70-1	木間ヶ瀬下根	稲荷社	稲荷社	稲荷塔	木堂	駒型	天保2年	1831	施主 勇治
138	70-2	木間ヶ瀬下根	水神宮	水神宮	水神塔		駒型	慶応元年	1865	戸張紋之丞/丸山坪
139	71-1	木間ヶ瀬下根	馬頭観世音	馬頭観世音	馬頭観音塔	木堂	石祠	文化10年	1813	東松山の稲荷箭弓稲荷
140	71-2	木間ヶ瀬下根	稲荷大神/千勝大神	稲荷大神/千勝大神	稲荷/千勝塔	木堂	石祠	宝永		
141	72-1	木間ヶ瀬下根	稲荷大明神	稲荷大明神	稲荷塔		石祠			
142	73-1	木間ヶ瀬下根	稲荷大明神	稲荷大明神	稲荷塔		石祠			

143	木間ヶ瀬下根	水神宮	水神塔	木堂		駒型	文政9年	1826	御影石(再建か)	阿部沼開運か
144	木間ヶ瀬下根	大杉神社	大杉塔	木堂		石祠	寛保2年	1742	逆井佐治右衛門	
145	木間ヶ瀬下根	板碑	板碑			石祠	明治26年	1893	昭和5年追刻	
146	木間ヶ瀬下根	馬頭観世音	八幡宮			石祠	大正11年	1922		
147	木間ヶ瀬下根	馬頭観世音	馬頭観世音塔			角塔	明治19年	1886		
148	木間ヶ瀬下根	庚申塔	庚申塔			自然石碑	安永		山参講	
149	木間ヶ瀬下根	浅間大神	浅間塔			自然石碑	延享4年	1747	石塚本家(小祠)	
150	木間ヶ瀬下根	馬頭観世音	馬頭観世音塔			駒型			現在、6017に有り	
151	木間ヶ瀬下根	雷電宮	雷電宮			不明			小祠(赤)	
152	木間ヶ瀬下根	稲荷大明神	稲荷塔	木堂		石祠	明治			
153	木間ヶ瀬下根	社) 稲荷社	稲荷社			自然石碑	江戸後期	1867		
154	木間ヶ瀬下根	浅間大神/八街大神/千勝大神	浅間猿田彦/千勝	木堂		自然石碑	延享元年	1744		
155	木間ヶ瀬下根	大神宮	大神宮			石祠	明治14年	1881		
156	木間ヶ瀬下根	雷電宮	雷電塔	木堂		石祠	明治10年	1877	鈴木長左衛門・藤右衛門	
157	木間ヶ瀬下根	参明藤開山	浅間塔	塚		自然石碑	明治10年	1877	丸宝講/セメント塚	
158	木間ヶ瀬下根	元祖霊神	浅間塔	塚		自然石碑	明治10年	1877	丸宝講/セメント塚	
159	木間ヶ瀬下根	小御嶽神社	浅間塔	塚		自然石碑	明治10年	1877	丸宝講/セメント塚	
160	木間ヶ瀬下根	社) 諏訪神社	諏訪社	木堂		自然石碑			祠堂	
161	木間ヶ瀬下根	稲荷大明神	稲荷塔			石祠	延享元年	1744	小祠	
162	木間ヶ瀬下根	浅間大神/小御岳神社/元祖霊神	浅間塔			自然石碑	明治14年	1881		
163	木間ヶ瀬下根	浅間大神	浅間塔			自然石碑	明治20年	1887	山参講	
164	木間ヶ瀬下根	浅間大神/小御岳神社/元祖霊神	浅間塔			自然石碑	明治17年	1884	山参講	
165	木間ヶ瀬下根	浅間大神	浅間塔			角塔	昭和24年	1949		
166	木間ヶ瀬下根	観音・明王3体	観音像外	木堂		金属像			堂内・夏家内で灯籠奉り(畑より出土)	
167	木間ヶ瀬大山	鷲宮	鷲宮塔			石祠	宝永カ			
168	木間ヶ瀬大山	妙見菩薩/鬼子母神/稲荷大明神/外	妙見/鬼子母神/稲荷	木堂		駒型	昭和28年	1953	江戸中期か	
169	木間ヶ瀬大山	稲荷宮	稲荷塔			石祠	記名無し			
170	木間ヶ瀬大山	浅間大神	浅間塔			自然石碑	明治10年	1877		
171	木間ヶ瀬大山	社) 稲荷神社	稲荷神社			自然石碑				
172	木間ヶ瀬大山	稲荷宮	稲荷塔			石祠	記名無し			
173	木間ヶ瀬大山	水神宮	水神塔			角塔	安永8年	1779	阿部沼より引き取り	
174	木間ヶ瀬大山	青面金剛	庚申塔			角塔	文化			
175	木間ヶ瀬大山	百番順礼塔	順礼塔			角塔	文化4年	1807	逆井八左衛門常房/天明8年より文化4年迄	
176	木間ヶ瀬大山	山之神	山神塔	木堂		駒型	不明			
177	木間ヶ瀬大山	三山西国巡礼塔	順礼塔			自然石碑	大正		砂南の稲荷神社は元	この家の氏神
178	木間ヶ瀬新宿	摩怛利神塔	摩怛利神塔			自然石碑	明治30年	1897	山村氏/赤痢除	
179	木間ヶ瀬新宿	奉造立□□□	不明			石祠	剥落			